
事例報告

「北里大学教職課程ホームカミングデイ2019」 実施報告

西村 宗一郎

北里大学海洋生命科学部

岡野 安洋

北里大学副学長

山本 明利

田中 保樹

北里大学理学部

渡辺 克己

北里大学獣医学部

市毛 正仁

落合 賀津子

北里大学看護学部

「ホームカミングデイ2019」開催の背景

現在、初等中等教育における教員を取り巻く環境は大きな変革期にある。まず、変革の第一としては、大学においては教職免許法の改正により2019年度から年次進行で新教職課程による教員養成となっていることがあげられる。新教職課程では、より実践的な能力の育成を図ることとし、科目ごとに質保証の観点から、全体目標・一般目標・到達目標を定めた「教職課程コアカリキュラム」が導入された。また、新規必須の教職科目として「総合的な学習の時間」や「特別支援教育」などが追加され、必須ではないものの「学校体験活動」、教科専門科目と教科指導法科目に架橋する「教科内容構成学」のような科目の設置が提唱されている。

学校現場では、学習指導要領の改訂が行われ、中学校においては2021年度に全面実施となり、高等学校においては2022年度から年次進行で実施されることになる。さらに、新たな課題（英語、道徳、ICT、特別支援教育）や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善等に対応した教員養成への転換など、教員養成課程に対する期待は大きい。

このような中で、学生たちは、中・高校生の時に体験した授業と違う指導の在り方が求

められることとなる。地域や学校によっては、近年では、大量退職・大量採用の影響などにより、中堅の教員の数が極端に少なく、学校内における年齢構成の不均衡が生じており、初任者等の経験の浅い教員への指導技術の継承が難しくなっているとの指摘もある。

このような背景と共に、前2回の北里大学卒業生教員と教職課程履修の学生との幅広い交流が図られ成果があったことから「北里大学教職課程ホームカミングデイ2019」を、教職課程センターが企画し開催した。資金面では、北里大学学長助成金の支援を得られたことが大きな後押しとなった。

過去の実施状況

- ・2013年9月21日（土）に理学部同窓会と「北里OB教師の会」が企画し、他学部の同窓生にも呼びかけて「カミングホーム2013」を開催。
- ・2016年12月3日（土）に教職課程センターが主催し、北里大学同窓会とのコラボレーション企画「教職課程カミングホーム2016」を開催。（2016年の経緯・内容等の詳細については、「北里大学教職課程センター教育研究 2（2016）」に実施報告として掲載している。）

「ホームカミングデイ2019」の目的

卒業生教員からの本学教員養成における期待や課題をいただくことや、最近の学校現場の生の声を聴く機会を設けることは意義深いものがある。また、大学側の持つ教員養成に関する研究成果やリソースの提供と、卒業生教員の持つ現場における今日的な課題を生の情報として提供しあうことで、相互にメリットができ、学生に対して卒業生教員と教職課程センターが協働する「チーム北里」の体制に発展させていくきっかけとしたい。

「チーム北里」体制では、学生は直接現役の卒業生教員から、具体的な話を聞くことで、自己実現（教職に就くこと）に向けた適切な準備を行うことができる。また、卒業生教員は「理論と実践の往還」による「学び続ける教員」であることが社会から求められているが、教職課程センターからアドバイスを受けることができる。なお本学は現場経験の豊富な教員が多く、卒業生教員への指導技術についてもアドバイスが可能である。

教職課程センター設置（2013年）当初から、本学のような歴史と伝統のある教職課程の中で従来から、卒業生教員との連携がなく、卒業生教員というリソースの活用が十分に行われていないことについて課題と考えている。卒業生教員は、北里大学を応援して頂ける同窓生でもあり、後輩学生の教員就職を後押ししてもらえばかにも、教え子の進学先に本学を勧めていただくなどの効果も期待できる。

実施内容

「ホームカミングデイ2019」は、以下の実施要領に従って行われた。各プログラムの内容・実施結果および成果は後述とする。

日時：2019年11月9日（土）14：00～18：30

会場：L1号館

第1部、2部：3階33講義室（190名収容規模）

第3部：2階学生食堂

タイムライン

- 13：30 受付開始・3階エレベーターホール前
- 14：00 開会の言葉・司会 高山教職課程センター事務長
挨拶 岡野安洋教職課程センター長
竹澤美男OB教師の会会長
理学部、海洋生命科学部、看護学部、獣医学部の各学部長代理から各学部の近況報告
- 14：20 学生による活動報告（教職ゼミ・夏休みこども実験教室）、授業力向上に関する意見交換
- 15：20 休憩
- 15：30 卒業生教員によるお話
- 16：30 休憩・第2会場へ移動
- 16：40 教職課程履修学生と卒業生教員との情報交換会・懇親会
- 18：30 解散



第1,2部会場



岡野センター長挨拶



竹澤美男OB教師の会会長挨拶

当日の参加者

「ホームカミングデイ2019」の参加者総数は148名でその内訳は以下のとおりである。

このうち4年次生の教職課程履修者は「教職実践演習」の講義を兼ねており原則全員参加が義務付けられている。（看護学部の4年次生については、当日学部の行事が16時過ぎまであり、情報交換会・懇親会より参加）他年次生については自由参加である。なお、獣医学部の2～4年次生については、十和田キャンパスのため参加しなかった。）

1 卒業生教員：計38名（申し込みは40名）

学部名	参加者数	内 訳（申し込み者数）
獣医学部・獣医畜産学部	11名	畜産学科3、畜産土木工学科4、 生物環境科学科2、動物資源科学科2
理学部	13名	物理学科1、化学科7、生物科学科5
衛生学部	7名	化学科5、産業衛生学科2
海洋生命科学部・水産学部	7名	水産食品学科2、海洋生命科学科3、 水産増殖学科1、水産生物学科1
看護学部	2名	

2 4年次生：計54名

理学部	30名	物理学科8、化学科17、生物科学科5
海洋生命科学部	12名	
看護学部	12名	

3 1～3年次生：計44名

理学部	22名	物理学科9、化学科10、生物科学科3
海洋生命科学部	9名	
看護学部	11名	
獣医学部	2名	生物環境科学科2

4 本学退職教員 2名

5 本学教員 10名

第2部

1 学生による活動報告 (2件)

① 教職ゼミの取組

報告題：ゼミ「学びあい」活動報告

発表者：理学部物理学科4年 竹前 研

数年前から教員を目指す3年次生に対して、教員採用試験の準備として11月から3月にかけて教職課程センターの教員が呼びかけて、教員を目指す3年次生が自主的に、面接、小論文、模擬授業等を企画運営する『自主ゼミ』を行ってきた。今回、報告するのは、昨年度『自主ゼミ』に参加し、今年度教育実習を経験した発表者（来年4月から教員内定済み）が、「主体的・対話的で深い学び」「発問」「実感を伴う知識」を実習の中で実現することの大切さと難しさを実感したことから、教員採用内定者の4年次生や教員を目指している2、3年次生に呼びかけ、現場での実際の理科の授業研究として試みたものである。

理科の見方・考え方を働かせた「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち科学的に探究する活動として位置付けた3回にわたる模擬授業と実験・観察の実践報告を行った。



	模 擬 授 業	実 験
第1回	酸・アルカリの強さ、血液の循環	糸巻きの実験
第2回	重力加速度、運動量	浮力の実験
第3回	静止摩擦力	新幹線の窓

② 夏休み子ども実験教室の取組

発表者：理学部化学科3年 井出 詞央理

今年で5年目となった夏休み子ども実験教室について、以下の開催日程、実験題、準備スケジュール等の活動報告を行った。

日程：2019年8月20日（火）～23日（金）の5日間

・参加小学生数：107名 ・学生スタッフ：24名

・実験題 「ガウス加速器って何だろう！」「雪の結晶を作ってみよう」

「身近なもので電池を作ってみよう」「メダカってこんなやつだった」

「ミクロの世界を見てみよう」

・準備スケジュール：4月からスタッフの募集。5月には実験題決定。チラシやHP作成。6月にはチラシ発注。相模原市南区内小学校へ配布。（この間に相模原市教育委員会に後援依頼し取得。）7月に参加者多数により抽選。8月にはリハーサル実施。

発表終了後、第1回夏休み子ども実験教室のスタッフ責任者である現宮崎県三股町立三股中学校教諭の黒木宗太先生から教室を立ち上げた目的・経緯について説明を受け、今後のこの取り組みの発展を期待する旨の言葉が寄せられた。

なお、実験教室の立ち上げの詳しい経緯等については、以下の文献を参照

1. 渡辺克己、山本明利（2015）『「北里大学夏休み子ども実験教室」実施報告』
2. 黒木宗太（2015）「北里大学夏休み子ども実験教室」
『北里大学教職センター教育研究』第1号

また、今年度の実験教室の取組については、下記の雑誌に取り上げられている。
『東京人 12月臨時増刊 北里とノーベル賞「学生たちが手がける地域連携プロジェクト 地域の小学生に理科の楽しさを。北里大学夏休み子ども実験教室』』





黒木宗太先生

第1回夏休み子ども実験教室を語る

2 卒業生教員によるお話

① 「私立学校で働く」

発表者：鈴木 芳弘 様

(東京学館高等学校 校長)

公立の学校については、毎年神奈川県教育委員会の採用担当者を招いて実情等を聞く機会があるが、今回、東京学館高等学校 鈴木校長より、私立学校の特徴、メリット・デメリット等を詳しくお話しいただいた。



② 「特別支援教育 超スピード早わかり講座」



発表者：深井 敏行 様

(東京都立志村学園 副校長)

介護等体験で短期間であるが学生は、特別支援学校に伺ってはいるが特別支援教育についてイメージは希薄であったが、深井副校長の簡潔かつ学生に問いかけるなどをしてきたことなどから理解が深まりました。

また、深井先生の教員採用試験に向けての猛烈な勉強や、教員としての経験談は教員を目指す学生にとって大変示唆に富んだお話となった。

③ 「生徒と共に歩んできた科学研究—その魅力—」

発表者：奈良橋 隆己 様

(新潟県村上市立神林中学校 講師)

奈良橋先生は、退職後、理科講師として神林中学校で務めていらっしゃるが、理科教員、管理職としても子どもたちと共に科学部で活動をしていらした経験を語られて理科教員のあるべき姿を語られていたことは学生に大きな感銘を与えた。



④ 「授業づくり、面接に向けての具体的な話」



発表者：大河 真二 様

(神奈川県立総合教育センター 指導主事)

学生に体験させながらの実験を中心とした授業づくりのお話は大変参考になるお話だった。

時間が押している関係で、教員採用試験での面接のお話は短時間だったが学生にとっては参考になる内容だった。

第3部

情報交換会・懇親会

看護学部の4年次生も加わり、最初にOB教師の会北里大学事務局の北里大学自然科学教育センター長 須貝昭彦教授から、開会の挨拶を頂いた。卒業生教員4名の方から提供いただいた教材教具の展示ブースを設けてご説明いただいた。また教職課程センター渡辺教授からも教材の提供があり、卒業生教員の希望者に配布した。また、渡辺教授は、ハイビジョンと4Kの比較映像を展示した。各ブースでは参加者一同の質疑応答が盛んに行われた。また、話題提供として卒業生教員の勤務校での理科教員募集についてのお話があった。

その後、用意された軽食とソフトドリンクの立食となり、卒業生に学生が質問したり、退職された教職課程センターの教員と若手の卒業生が旧交を温めるなど大いに語り合い、盛会のうちに終了した。



情報交換・懇親会会場（学生食堂）



須貝教授挨拶

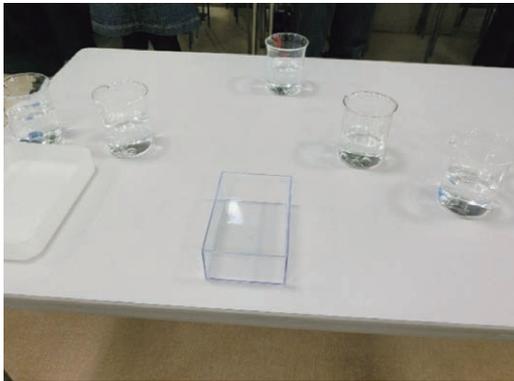
卒業生教員から提供された教材教具



石川 舜先生提供のバーチャル教材



竹澤会長 提供の教材教具



大河指導主事 提供の教材の一部



横山さゆみ先生 提供の食育に関する教具

教職課程センター 渡辺教授 提供の遺伝教材の展示



・教職課程センター提供教材一覧

1. メダカの産卵行動と発生に関するDVD（渡辺担当）

教職課程センターオリジナルのDVDです。発生初期における油滴の水平方向の回転運動は世界初の動画です。

2. 遺伝教材2種（渡辺担当）

(1) イネの種子2品種（ぬばえ・乙女稲（＝タンギンボウズ?））

開花時期が重なるため、交配により2遺伝子雑種を作ることが出来ます。

親とF1を同時に示せる、F2の分離比が播種後3週間で得られる、粒が大きいため実験が容易である等の利点があります。

(2) マツバボタン（宿根生マツバボタン・ジュエルの赤株と白株）

中学校の教科書に取り上げられています。花が美しく関東以西ならば露地で越冬します。種子が小さいので中学生の生徒実験には厳しいかもしれません。

遺伝ではありませんが、雄ずいの運動が活発で面白い。

3. 植物ホルモン実験教材（西村担当）

ジベレリン感受性が高い極矮性イネ、タンギンボウズ（短銀坊主）の種子。ジベレリン処理後1週間で変化が確認でき、実験教材として優秀です。

- ・その他の資料 東京学館高等学校案内パンフレット、深井先生原作の特別支援教育の啓発漫画等を学生食堂に展示し卒業生教員、学生に閲覧・提供
- ・配布資料 北里大学案内、入試ガイド、北里大学理学部25周年記念誌、チーム医療ガイド、ハロキタ（学生編集マガジン）等

卒業生教員の反応

卒業生教員に対してアンケートを行い、25名の方から回答をいただき集計した結果

1. 開催時期が適切でしたという問いに対して、「そう思う・思う」との回答が88%
2. 教職課程ホームカミングデイを続けたほうがよいかという問いに対して、「そう思う・思う」との回答が約90%

以上の肯定的な回答結果から、予算的な制約はあるが、何とか不定期であるが11月の時期に継続させていきたい企画であると考えている。

学生による活動の内容に対する卒業生教員の感想の一部を抜粋する。

- ・自分たちで企画し運営した活動を行っていることにとても感心しました。
- ・自らが考え、行動できることが素晴らしいと思います。どのような仕事でも一人で行っていくことは難しいので、自分のやりたいことをどのように実現するために努力したらいいのかということまで学べる機会になるのではないかと思います。
- ・熱意や意欲が感じられ、大変すばらしいと思います。また、何より自分自身への刺激となりました。

- ・自発的な活動で学ぼうとする姿があって良い。こういう模擬授業に、今回参加した卒業生が助言のような形で協力できる姿があってもよい。
- ・学生の積極的な行動を知ることができてよかった。細かなところや、言葉の使い方等、まだまだ改善の余地はあるが、頑張っている様子がわかり応援したい。地域とのつながり、小学生の早い時期に、素敵な体験、大変でしょうが頑張ってください。初めからうまくは、何事も行きません。経験に無駄なものは何もありません。何事もチャレンジしてください。
- ・自分が学生の頃より教職に臨む姿勢が熱くて感動した。
- ・素晴らしかったです。フレッシュでいいですね。現職の私にも刺激になりました。是非同じ業界でお会いできるといいですね。
- ・自発的・意欲的な活動の実践に感心しました。今日の発表を聞き、きっと教育現場でそれを発揮していきたくて嬉しくなりました。
- ・私がいた時よりもしっかり学生が勉強しているという印象でした。将来が楽しみです。
- ・教職を志す姿勢が強く感じられる。昨今の教育現場で求められていることについてもきちんと認識している。発表力（プレゼン力）が向上している。指導が行き届いている。
- ・とてもしっかりと話を聞いて感心しました。教職に関して前向きに考えていることがわかり教員（学校）に明るさを感じうれしかった。刺激をいただいた。
- ・積極的な取り組みに感心させられました。よく努力している姿は心強く感じる。多くの取組を実践することにより実際の現場の活動に生かされると思います。是非とも継続して頂きたい。
- ・ゼミの活動報告はとても分かりやすくエネルギッシュで素晴らしいものでした。
- ・学生の活動報告を聞き、学生時代を思い出して新たに仕事に向かおうという気持ちになった。
- ・学生の皆さんのエネルギーを感じる発表だった。
- ・学生の立場で努力する情報をいただきよかった。
- ・学生がこれだけ頑張っているとは思わなかった。熱意だけでなく学習指導要領をよく読んで学習している勤勉さを感じた。実験教室の活動報告では、授業に取り入れようと思った実験題材を発見できた。一生懸命な学生いて、主体的に動き、大学がこれを支えるという現状に大変感銘を受けた。

学生の反応

参加した4年次生（看護学部は3年次生）へ行ったアンケートのうちで「今回参加して、先輩方から学んだことは何ですか」という質問項目に対する回答を抜粋する。

- ・私立学校のシステムやカリキュラムの特徴が分かった。特別支援学校にも関心があり、お話を聞いたことはよかった。

- ・先輩方の教育観を知る良い機会だった。多くの先輩方の意見を聞いた。
- ・私立学校のメリット、デメリットについて具体的に説明していただき参考になった。LDなどの児童生徒が通常学級に約6.5%いる可能性があるということは参考になった。
- ・特別支援学校の様子や、生徒と研究することが有意義であることが分かった。
- ・教職における信念の大切さを学んだ。苦勞を語られていたがそれ以上に楽しさや喜びをお話されていた。来年から教職に就くので先輩方のように強い信念を持って働こうと思った。
- ・先輩方からの話から多角的で様々な考え方（教育観）があることが分かったが、共通していることは生徒のために考え行動していることを学んだ。多くの人の話を聞き自分なりの考えをまとめることが先生としてより良くなる第一歩だと思った。
- ・学校教育は仕事も多く精神的にも身体的にも大変であるがやりがいのある仕事であることが伝わりました。教員の資質として生徒が好きということが先輩の皆さんから伝わってきました。
- ・現役の先生だから言える辛さやそれを乗り越えたやりがいを聞くことができた。
- ・公立高校や公立中学校の先生の話は多く聞いたが私立学校や特別別支援学校の先生の話が印象的だった。
- ・現職の先生方からのお話を伺い、4月からの教師としてのイメージを作ることができた。通常の学級にも特別な支援が必要な生徒が一定数いることや理科教師として生徒から尊敬され慕われるためにどうあるべきか学べた。
- ・教育現場の負のイメージを先輩方から聞いてイメージがついたが、よくすることに努めていることも分かった。
- ・経験豊富で豊かな人間性がある人材が教員として求められる人材だということを改めて学んだ。
- ・iPadを用いる教育など私立学校の報告は印象に残った。
- ・教育実習の時とは違った現場の話聞くことができた。私立学校、特別支援学校の話は聞く機会の少ない貴重なお話で非常に参考になった。先生方の教員という仕事に対する熱意も伝わり教員の魅力を感じることができた。
- ・現場の生の声を聞くことができた。厳しい面もあるが、それを上回る生徒との関わりの中で得られる喜びがあることが伝わった。
- ・教職という仕事は責任がとて大きい仕事であることを学んだ。
- ・私立学校や特別支援学校の話は聞く機会がなくてイメージがなかったので参考になった。
- ・知らなかったことが多く、話を聞き教員にさらになりたいと思った。子どもたちが成長できるように、また、理科に興味を持てるような授業を展開できるよう努力をしたいと思った。

- ・現場で働く先生方の実態を聞くことができとても参考になった。
- ・非常に説得力があり、ためになる内容だった。学ぶことが多い会だった。
- ・多くの先輩方の話を聞き、教員として柱となる部分（実験、部活動等）をしっかりと持っていることを感じた。
- ・現在の日本の教育について、生の声を聞くことができとてもためになった。他の教科にはない理科だけにある魅力を伝えることは面白そうだった。
- ・子供達と共に新たなことに挑戦し学び続けることができ、そのことで、生き生きとした子供たちの姿を見ることができるのが教育だと思った。
- ・私立学校の教員を目指す上で、特徴をつかめた。様々なことをオープンに話してくれてためになった。生徒募集業務の大変さや、予想もできない要望への対応力の必要性などを知ることができた。
- ・私立学校の現状・問題点などここまでしっかり聞いて良かった。卒業生の方で副校長になられたのはすごいと思った。当時の採用試験受験の大変さや特別支援学校のことなど様々なことを聞いて良かった。
- ・先輩方から現場の様子を聞いたことや私立学校のメリット・デメリットの話を聞いたのは良かった。先生同士の関係は良い学校を作る条件であることを学んだ。
- ・行動を起こすとき、どのような考え方、情熱の下で始まるのかを学んだ。また、先輩方が大変な中でも、楽しみながら働いていることがわかった。
- ・現場の苦勞する点や、やりがいなど生の声をたくさん聞いた。また、学校運営や教員としての留意点、インクルーシブ教育、学校の形態など学ばなければいけないことが沢山あることが分かった。
- ・発達障害等の生徒を気にかけるながらの授業展開が今後の学校教育では必要であることを学んだ。
- ・私立学校、特別支援教育といった視点からの教員の世界を知ることができたためになった。科学部での活動は楽しく聞いた。
- ・私立と公立の違いや特別支援の状況などを聞くことができ実際どうなのかを学べた。
- ・現場の生の話を、良い面も大変な面も聞くことができ必要とされるものを学べた。また現場のイメージが多少できた。また、マイナスをプラスに変えることができることを学んだ。
- ・私立など働く場所によって様々な特徴があることを知った。教師は、情熱をもって教育に携わることが大切だと学んだ。
- ・教員となり良かったこと苦勞したことなど具体的な話を聞いた。また、近年の教育の変化を知ることができた。先輩の方々の話し方、構成などとても参考になった。
- ・公立学校出身なので私立学校をイメージする良い機会となった。教師になることがゴールではなく教師として学びを深めていく必要性を学んだ。

- ・教育に対する様々な意見の交換ができ、生徒の立場に立っていかに伝えたいことをわかりやすく伝えることが大切であるかわかった。
- ・公立学校だけでなく私立学校で働くという選択肢もあることを知った。深井先生の話に感銘した。特別支援教育は重要であることがよくわかった。

「ホームカミングデイ2019」を振り返って

今回の企画は、過去2回の企画と同様に教職課程の教育活動に一環として実施したもので卒業生教員と現役学生との交流によりお互いに大いに刺激を受けたものとアンケート結果からも伺える。

企画の段階で次のような効果を学生、卒業生、大学のそれぞれに狙ったものだが大いに効果が達成できたと思われる。

(学生)

- ・教職に就くことに向けた適切な準備を行うことができる。
- ・今日的な課題事例の紹介により、教職へのイメージを具体化できる。
- ・自身の専門性を教員としてどう生かすか、学部専門科目に対する取り組み方も変わる。

(卒業生教員)

- ・母校とのつながりを持ち、また卒業生教員間においても異年齢の学部を越えた交流の機会となる。
- ・現場経験の豊富な大学の教員から教科指導についてアドバイスを受けることができる。
- ・学び続ける教員として、理論と実践の往還をすることが可能になる。

(大学)

- ・北里大学に好意的な卒業生教員を増やし、連携による大学の広報活動に資する。
- ・教職実践演習などの教職科目に特別講師として招き、連携をする。

最後に、当初のタイムラインを大幅にタイムオーバーしてしまい各方面にご迷惑をおかけしたことを、紙面を借りてお詫びします。特に、遠方からの卒業生の方で懇親会に参加できずに帰られた方には伏してお詫びいたします。多くの方の感想からも学生の活動報告への質疑等の時間が欲しかったとの感想もいただきました。